

東北メディカル・メガバンク計画（TMM計画）の 今後の在り方に関する検討について

令和8年8月19日 次世代医療実現のための基盤形成に関する作業部会（第5回）

文部科学省研究振興局ライフサイエンス課

第219回国会における高市内閣総理大臣所信表明演説（抄） （令和7年10月24日）



8 健康医療安全保障 （略）

また、**「攻めの予防医療」を徹底**し、健康寿命の延伸を図り、皆が元気に活躍し、社会保障の担い手となっていただけるように取り組みます。特に、**性差に由来した健康課題への対応を加速**します。私は長年、女性の生涯にわたる健康の課題に取り組んでまいりましたが、昨年、「女性の健康総合センター」が設立されました。本センターを司令塔に、**女性特有の疾患について、診療拠点の整備や研究、人材育成等に取り組む**など、その成果を全国に広げてまいります。

攻めの予防医療に向けた性差に由来するヘルスケアに関する副大臣等会議の概要

第5回攻めの予防医療に向けた性差に由来するヘルスケアに関する副大臣等会議

資料1
(一部改変)

2026(令和8)年5月25日

- 「攻めの予防医療」とは、健康寿命の延伸を図り、皆が元気に活躍し、社会保障の担い手になっていただけるように、予防に努め、疾病を発見し、早期に適切な機関等につなげること。
- がん検診の推進など、「攻めの予防医療」全体については、上野賢一郎厚生労働大臣のリーダーシップの下、推進していくが、特に関係省庁の連携による取組が重要になる、性差に由来する健康課題等への対応を推進するため、本副大臣等会議(※1)を開催。

(※1) 構成員等：佐藤内閣官房副長官(議長)、仁木厚生労働副大臣(副議長)、岩田内閣府副大臣(全世代型社会保障改革担当)、鈴木内閣府副大臣(健康・医療戦略担当)、津島内閣府副大臣(こども政策担当)、小林文部科学副大臣・福田文部科学大臣政務官、井野経済産業副大臣・山田経済産業副大臣、堀内総務副大臣

- 令和7年12月から令和8年5月にかけて、有識者ヒアリング(※2)を含め計5回会議を開催し、以下の論点及び取組の方向性が示された。

(※2) 有識者ヒアリング対象者：南学正臣 日本内科学会理事長、片井みゆき 政策研究大学院大学保健管理センター所長、堀江重郎 順天堂大学大学院泌尿器科学主任教授、大須賀穰 東京大学名誉教授、大隅典子 日本学術振興会理事、武藤真祐 株式会社インテグリティ・ヘルスケア代表取締役会長、山本雄士 株式会社ミナケア取締役、古井祐司 東京大学未来ビジョン研究センター特任教授

提示された論点

①性差に由来する健康課題 に対応する医療の推進

- ・ 更年期世代の女性に必要な医療につなげるため、一般の臨床現場において活用できるよう、診療領域を横断した共通的な考え方を整理し、更年期世代の女性の健康課題に対応できる医療機関の見える化を行うことが必要。
- ・ 「女性の健康総合センター」の機能強化が必要。

②ライフステージに応じた性差に由来する 健康課題への対応の推進

- ・ 学校・職場・自治体といった様々な場でプレコンセプションケアの推進を図っていくため、具体的な工程表を策定し、実行していくことが重要。
- ・ 学校保健や職場健診における対応を推進するとともに、ライフステージに応じた対応に向けた研究開発を推進することが重要。

③企業・保険者等における対応の推進

- ・ 中小企業等における健康経営を推進するとともに、データヘルスを基盤とした「予防医療モデル」の構築を通じて、保険者による予防・健康づくりを推進することが重要。
- ・ 多様なニーズに対応したヘルスケア産業の育成を図っていくことが重要。

取組の方向性

更年期を中心とした女性・男性それぞれの健康課題について、症状を適切に評価・鑑別し、必要な医療につなぐ体制の整備を進めることが柱である。

若年期から高齢期まで、ライフステージごとに異なる健康課題に対し、切れ目のない予防・支援体制を構築することを目的とする。

企業、保険者、自治体が連携し、予防・健康づくりへの投資を加速する社会的仕組みを整える。

□ 更年期世代の女性を診療する一般診療医向けのガイドスを作成し、研修等を通じて共通的な考え方を周知するとともに、更年期世代の女性の健康課題に対応できる医療機関の見える化を行い、ポータルサイト「ヘルスケアラボ」等で検索ができるようにする。

□ 心身の不調を抱える女性が、自らの情報を活用し、円滑な受診につながるためのツールを作成する。

□ 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」における性差を考慮した医療に関する記載の充実に向けた検討を行い、医療教育の充実を図る。

□ プレコンセプションケアを軸に、学校・職場・地域での取組を体系的に推進するとともに、学校保健を通じた早期把握と適切な対応を強化する。

□ 職場において、女性特有の健康課題に係る問診を実施し、専門医への受診勧奨等を推進する。

□ さらに、性差や発達段階を踏まえた研究開発やデータ基盤の充実を通じて、科学的根拠に基づく予防・治療法の高度化を目指す。

□ 保険者による予防・健康づくりを推進するため、これまで創出されたデータ及び知見の整理を行い、データヘルスを活用した予防医療モデルの構築を進める。

□ 中小企業における健康経営の推進に向け、自治体・経営支援機関と地域の健康づくり支援機関の連携による支援を強化する。

□ エビデンスに基づくヘルスケアサービスの開発支援、臨床での活用を目指してPHRを活用したユースケースを創出。

論点②：ライフステージに応じた性差に由来する健康課題への対応の推進

第5回攻めの予防医療に向けた性差に由来するヘルスケアに関する副大臣等会議

資料 1
(一部改変)

2026(令和8)年5月25日

提示された論点

- ライフステージに応じて、学校・職場・自治体といった様々な場でプレコンセプションケアの推進を図っていくため、プレコンセプションケア推進に向けた具体的な工程表を策定し、工程表に基づく取組を実行していくことが重要。
- 学校保健や職場健診における対応を推進するとともに、ライフステージに応じた対応に向けた研究開発を推進することが重要。



取組の方向性

◎ プレコンセプションケア推進に向けた具体的な工程表の策定・実行

- 関係省庁の緊密な連携の下、「プレコンセプションケア推進5か年計画」（令和7年5月）に基づく各種取組を着実かつ積極的に推進するため、以下の観点に基づき、プレコンセプションケア推進に向けた具体的な工程表を策定し、工程表に基づく取組を実行。
※プレコンセプションケア：性別を問わず、適切な時期に、性や健康に関する正しい知識を持ち、妊娠・出産を含めたライフデザイン（将来設計）や将来の健康を考えて健康管理を行う概念

学校における 取組の推進

性別を問わず全ての人が、若年期から性や健康に関する正しい知識を習得することが重要であることから、発達の段階に応じて、学校の場合も含めて、プレコンセプションケアの趣旨を踏まえた適切な資質・能力を身に付けられるようにする

職場における 取組の推進

企業におけるプレコンセプションケアの取組の実施を、以下の認定の中で関連づけ、企業のインセンティブを高める

健康経営優良法人

えるばしプラス

こどもとともに成長する企業構想

自治体における 取組の推進

若年層はもとより、その保護者も含め、気軽に相談できるよう、自治体における「性と健康の相談センター事業」の取組を拡充し、相談窓口の周知を行うとともに、対面のみならず、SNSやメール、オンライン面談、電話なども活用した相談体制を構築

◎ 学校保健・職場健診における対応の推進

- 小学校中学年から体系的な保健指導の充実
- 事業者や健診実施機関に対して、女性特有の健康課題に係る問診の実施を働きかけ、その結果を受けた職場環境の整備について周知・支援を行うとともに、健診実施機関による問診結果を踏まえた必要な情報提供や専門医への受診勧奨等を推進

◎ ライフステージに応じた対応に向けた研究開発の推進

- バイオバンクが保有するゲノム・オミックス情報や臨床情報等の充実を通じた性差に由来する健康課題に対応するための研究開発を推進し、予防・治療法の開発につなげる
- 研究者の性差に対する認識を深めるための啓発活動を推進するとともに、性差に由来する健康・医療上の課題に関する研究公募枠等の充実を図る

国際動向・我が国の状況

(国際動向)

- 世界各国のバイオバンクでは、数十万人以上の大規模な全ゲノム解析が推進。オミックス情報や臨床情報等の充実も加速。
- 近年、ゲノム情報を利用した創薬研究により、様々な治療薬の上市事例が登場。バイオバンクの利活用も進み、UKバイオバンク等のデータから発見された治療標的に対する創薬研究もスタートアップが中心となり推進。バイオバンクにおける関連データの蓄積や新しい解析技術・情報解析技術の進展を背景として、ゲノム情報にとどまらない多種多様なデータを複合的に活用したデータ駆動型研究が加速。

(我が国の動向)

- ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム（B-Cure）等において、一般住民・疾患バイオバンクの構築や利活用が進展。先端ゲノム研究開発等により、東アジア人の特徴を踏まえた重症化マーカー等の発見とそれによる医療への展開も実現。

主な課題

- 世界のバイオバンクが大規模化する中で我が国の強みを活かす方策
- バイオバンク等のデータを活用した研究成果の、創薬等の出口への展開

今後の方向性

- 我が国の強みを活かし、**アジアを牽引する多層かつ高品質なバイオバンク・ネットワーク※を維持・発展**させる。
- バイオバンクの**利活用をより一層進め**、複雑な疾患メカニズムに迫る多層的な**バイオバンクの試料・情報等を利用したデータ駆動型研究を加速**させる。

※ 疾患発症や重症化等のメカニズムについて時系列を追って詳細に解析可能となる、オミックス情報や画像情報、臨床情報等が充実した情報基盤として、一般住民バイオバンク及び疾患バイオバンクを中心とした国内バイオバンクの連携を強化。

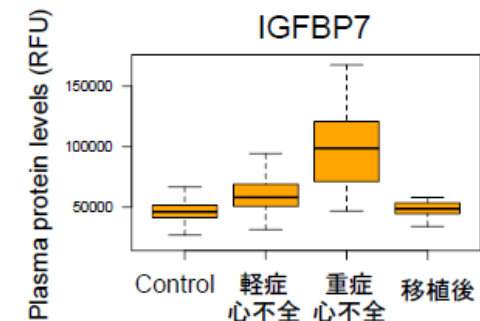


我が国が世界に存在感を発揮しつつ、次世代医療・予防医療を実現

(B-cureにおける先端ゲノム研究と医療への展開の成果例)

○心不全診療ガイドライン等へ反映（東大小室先生ら）

- ・ 空間オミックス等の新規技術を用いた解析により重症化マーカーを同定し、心不全診療ガイドラインへ反映
- ・ 重症化に関わる分子機序を標的とした新しい治療法を開発
Ko, Nomura, Komuro et al. *Nat. Commun.* (2022)
Ito, Nomura, Komuro et al. *Circulation* (2024)
Katoh, Nomura, Komuro et al. *Circulation* (2024)



○2型糖尿病の合併症リスク層別化（東大山内先生ら）

- ・ 世界最大規模の解析により、2型糖尿病の遺伝要因ごとの合併症リスクを算出
- ・ 遺伝要因分類により、糖尿病治療強化が望ましい症例を特定
Suzuki, Yamauchi et al. *Nature* (2024)

今後の方向性

(1) バイオバンクの在り方

① 利活用促進に係る取組

- 国内バイオバンクの連携を強化する。特に**疾患バイオバンクと一般住民バイオバンクの連携を強化**する。
- 複数のバイオバンク間でのデータの利活用を進めるため、それぞれが保有する**試料・情報を一元的に申請・利用できる仕組み**や**解析プロトコルの統一化、解析データの標準化**を進める。
- ユーザーとバイオバンクを繋ぐ機能を強化する。**ゲノム医療の専門家以外の研究者や、スタートアップを含む民間企業等の多様なユーザーによるバイオバンクの利活用を促進**すべく、データアクセス支援等を行う。
- バイオバンクの試料・情報を用いた**大規模解析等を実現する計算処理環境の整備**を行う。

② コホート調査

- 我が国が独自性を有する三世代コホート等のコホート調査を継続・充実**させるとともに、**追跡調査の精度向上**に努める。
- 研究参加者へのリコンタクトを可能とするコホート**を検討する。
- 疾患コホートにおいては、**ライフステージを俯瞰した疾患横断的な解析を可能とするコホートの充実**を検討する。
- 持続的発展に向けた**効率的運用**を検討する。

③ 試料・情報の整備

- 利用者**ニーズに対応したオミックス情報等の多層的な試料・情報を充実**させる。特に一般住民バイオバンクにおいて、**臨床情報・健康情報を充実**させる。

④ その他

- バイオバンクの利用者が多様化し、ゲノム情報等を用いた研究が活発になることにより生じうる**倫理的・法的・社会的課題に十分配慮**する。
- コホート参加者への**遺伝情報等の回付**について、知見を積み重ねる。
- バイオバンクの運営・構築やその試料・情報を用いた研究等に関わる**人材を育成**する。若手研究者やゲノム医療以外の分野の研究者による研究へのコミットメントを促進する。
- 国際動向・国際標準を踏まえて試料・情報の充実**を図る。国際連携については、個々の研究計画ごとの検討を積み重ねつつ、制度的な課題の検討も必要である。

(2) バイオバンクの試料・情報等を活用した研究の在り方

- 創薬や予防・診断等を出口として想定し**、バイオバンクの試料・情報の充実と併せて、**ゲノム／オミックス×画像×臨床情報といった複合的なデータ駆動型研究を加速**する。
- 我が国が本分野での優位性を得るため、**革新的な解析技術・情報解析技術の研究開発を推進**する。

次世代医療実現バイオバンク利活用プログラム 【B-cure NEXT】

令和8年度予算額 41億円（新規）
* 令和7年度は ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム
（B-cure）（43億円）で実施



文部科学省

令和7年度補正予算額 43億円

現状・課題

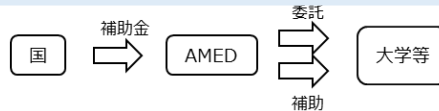
- 世界各国で大規模なバイオバンクの構築が進み、全ゲノム情報に加え、**オミックス情報や臨床情報等の収集も加速**。**バイオバンクの試料・情報から得られた治療標的に対する創薬研究等も活発化**。
- 我が国においても、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2025年改訂版（令和7年6月13日閣議決定）」や「経済財政運営と改革の基本方針2025（令和7年6月13日閣議決定）」において、「**疾患解明や創薬等の利活用に貢献するデータドリブンのオールジャパンのバイオバンク機能の強化**」や、「**ゲノム情報基盤の整備や解析結果の利活用を進める**」こと等、バイオバンク基盤の強化及びその利活用の推進が重要である旨位置づけられている。
- これらの国内外の動向を踏まえ、世界的なバイオバンクの大規模化に対し、我が国に限られた資源の中で本分野におけるプレゼンスを発揮していくためには、**我が国の強みを生かしたバイオバンクを維持・発展させ、利活用をより一層進めることで、バイオバンクの試料・情報等を利用した複合的なデータ駆動型研究を加速させていく必要がある**。

事業内容

事業実施期間

令和8年度～令和12年度

【事業スキーム】



I. 次世代医療実現推進プラットフォーム 14億円（14億円）

《創薬等出口につなげるデータ駆動型研究開発》

- 公募型での研究開発の推進により、**創薬等を出口として想定し、ゲノム・オミックス情報、臨床情報等のバイオバンクの試料・情報等を利用したデータ駆動型研究を推進**するとともに、若手研究者の裾野拡大を目指す

《ゲノム研究プラットフォーム利活用システム》

- バイオバンク横断検索システムの構築・運用

《次世代医療実現のための研究基盤の整備》

- **データ駆動型研究加速のための情報基盤の強化**

《倫理的・法的・社会的課題への対応》

利活用促進

全ゲノム解析等に係る
事業実施組織との連
携も検討中

TMM

*NC
BN

BBJ

全国の他のバイオバンクや、
臨床医、異分野の研究者、
民間企業等と幅広く連携

II. 東北メディカル・メガバンク計画（TMM）

21億円（22億円）

- 世界的にも貴重な家系情報を含む一般住民15万人の試料・健康情報を保有
- 我が国の強みである**三世代コホート基盤の強化・充実、臨床情報等の充実したリコンタクト可能コホートの構築**

III. ゲノム研究バイオバンク（BBJ）

6億円（5億円）

- 多様な疾患の生体試料とその解析データ・臨床情報（27万人、44万症例、51疾患）を有する大規模バイオバンクを構築
- **国内バイオバンク・コホート連携による次世代医療基盤の強化**

利活用
促進

- ・ 国内バイオバンク・ネットワーク連携を強化し、オールジャパンでの利活用促進
- ・ 複合的なデータ駆動型研究を加速

*NCBN：ナショナルセンターバイオバンクネットワーク（厚生労働省）
**：全国各地のコホート・バイオバンク（科研費等）

基盤
整備

- ・ コホート調査の効率化等の運営費の効率化を図りつつ、**企業等の利活用促進に向けた基盤強化**

（担当：研究振興局ライフサイエンス課）

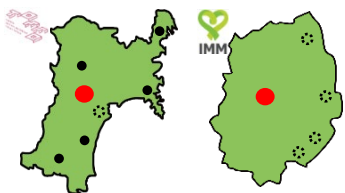
東北メディカル・メガバンク計画（TMM）

- 15万人規模の縦断的試料・健康情報を有する一般住民バイオバンク
 - 官民共同含め12万人分の全ゲノム解析を実施、6.1万人分のリファレンスパネルを公開
 - 7万検体のメタボロームデータを含むマルチオミクスデータを統合したjMorpデータベースを公開
 - バイオバンクでは、累計試料保管数は約470万本、試料提供数は約59万本に到達、試料・情報分譲審査委員会で分譲160件、共同研究433件を承認、アカデミア・民間企業に利用されている。
 - 東北大学病院と名寄せした約7000人の医療情報を収集
- （ここまでR8年3月末時点）

(ここまでR8年3月末時点)

コホート（健康）調査

地域支援センター
（宮城3カ所+3カ所出張対応、
岩手1カ所に集約、R8年4月時点）



医療系専門職が、健康調査を実施

- ・生体試料
(血液・尿等)
- ・健康情報
- ・診療情報 等



センターの一例



健康調査の一例

地域住民コホート

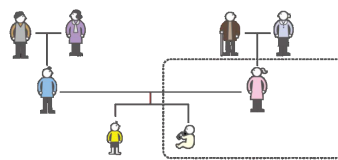
沿岸部を中心に8万人以上の成人



宮城登録者	約5万名
岩手登録者	約3万名
総計	約8万名

三世代コホート【世界初】

妊婦を中心に、
子・親・祖父母の三世代7万人以上



15万人以上の リクルート達成

バイオバンク運営

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構内

健康調査によって収集した**生体試料や健康情報、診療情報、ゲノム・オミックス解析結果等**を蓄積



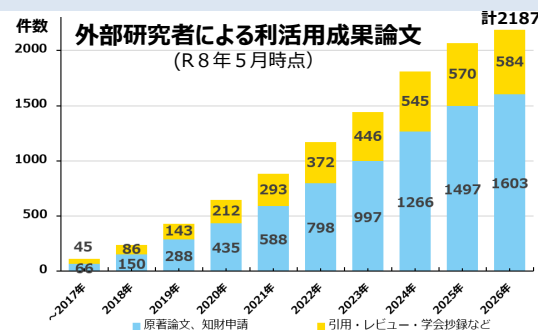
牛体試料保管庫



データサーバー
(臨床情報・解析データ)

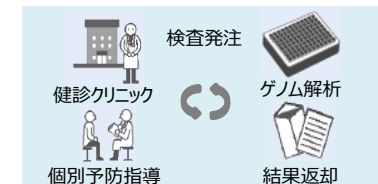
**アカデミア・民間企業に対して、試料・情報分譲を実施、
利用拡大中**

- 生体試料：血清、DNA、血漿、唾液、尿 等
■情報：調査票情報、全ゲノム配列情報、血中代謝物情報、
脳MRI検査情報、生理機能検査情報、疾患情報 等



個別化医療の実現

ゲノム情報を活用した**未来型健診**(イメージ)



一人一人に合った健康管理や行動変容へ

将来的な医療費削減

個別化医療を支えるキーテクノロジー

日本人に最適化したDNAアレイの開発



全ゲノムリファレンスパネルの構築 (日本人集団が持つゲノム多型の参照カタログ)

GCATAGTGACTCAGCATTACCA
GCATAGTGACTCAGCATTACCA
GCATAGTGACTCACCAATTACCA
GCATAGTGACTCAGCATTACCA
GCAT---ACTCAGCATTACCA

↑
欠生

↑
SNV

世界的にも貴重な家系情報を含む前向き一般住民コホート／バイオバンクの構築

（１）東北メディカル・メガバンク計画（TMM計画）におけるミッションの再確認

「本計画は、復興を目的とした東日本大震災復興特別会計等で措置されており、被災地における医療の再生と医療機関の復興に併せ、**被災地を中心とした大規模ゲノムコホート研究を行うことにより、地域医療の復興に貢献するとともに、創薬研究や個別化医療等の次世代医療体制の構築を目指す**ことを主たる目的としている。」

（TMM計画 全体計画（平成24年7月）より抜粋）

（２）TMM計画に期待される将来像

① 期待される成果

- ・ 国民全体に裨益する成果
- ・ バイオバンク利活用の出口として個別化医療、予防医療、診断、創薬等が想定されるところ、特にTMM計画に期待されるもの（ニーズはどこにあるか）

② 利活用の理想像

- ・ 利用者の拡大
- ・ より円滑な利活用の在り方（AI活用による利便性の向上等）
- ・ ToMMo・IMMとの共同研究によらない、単独利用の拡大（アクセス環境の整備等）
- ・ 商用利用へのハードルの低減
- ・ バイオバンク間連携におけるTMM計画の役割
- ・ ニーズに応じた試料・情報等の充実（臨床情報との連携、リコンタクトコホート※の構築等）
- ・ ニーズの吸い上げ
- ・ 国のアセットとして整備・維持すべき基盤はどこまでか（コホート研究の一定のゴールは設定可能か。広く利活用が見込めるが、民間企業の投資が得られにくい部分はどこか。）

※ 特定の対象者への追加調査や軽微な介入を可能とするコホート

【令和8年8月19日 第5回】

- 検討事項の説明（事務局）
- 諸外国のバイオバンクの動向の紹介（JST CRDS 辻 真博 フェロー）
- TMM計画実施主体による進捗状況の説明（ToMMo・IMM）
- TMM計画（第4期）の在り方について意見交換《非公開》
論点（案）等について委員間で意見交換を実施

【令和8年10月28日 第6回（予定）】

- ユーザーからTMM利活用の状況・課題・要望
民間企業等の利活用例
- とりまとめに向け議論

【令和8年11月25日 第7回（予定）】

- とりまとめ（案）について議論

令和8年内 とりまとめ（予定）

參考資料

「次世代医療実現のための基盤形成に関する作業部会」について

開催趣旨

B-cure事業の今後の在り方について検討するため、科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会ライフサイエンス委員会の下に、「次世代医療実現のための基盤形成に関する作業部会」（主査：中釜 斉 国立がん研究センター理事長（当時、現AMED理事長））を設置。

委員一覧

（令和7年2月時点、敬称略・五十音順）

	氏名	所属機関	所属部署・役職
主査代理	伊藤 隆司	九州大学大学院	医学研究院 教授
	岡田 随象	東京大学大学院	医学系研究科 教授
	川崎 浩子	独立行政法人製品評価技術基盤機構	バイオテクノロジーセンター 上席参事官
	小崎 健次郎	慶應義塾大学	医学部 教授
	斉藤 典子	公益財団法人がん研究会がん研究所	がん生物部長
	櫻井 晃洋	札幌医科大学	医学部 教授
	澤田 典絵	国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所	コホート研究部長
	武林 亨	慶應義塾大学	医学部 教授
	玉腰 暁子	北海道大学大学院	医学研究院 教授
	寺尾 寧子	武田薬品工業株式会社	R&Dリージョナル&ビジネスオペレーションズ R&Dジャパンリージョン エクスターナルサイエンティフィックエンゲージメント ヘッド
主査	中釜 斉	国立研究開発法人国立がん研究センター	理事長（当時、現AMED理事長）
	二宮 利治	九州大学大学院	医学研究院 教授
	桃沢 幸秀	国立研究開発法人 理化学研究所	生命医科学研究センター チームリーダー
	横野 恵	早稲田大学	社会科学部 准教授

開催実績

【第1回】（令和6年11月15日）

○東北メディカル・メガバンク計画の取組と今後の方向性に関するヒアリング
・山本 雅之 東北メディカル・メガバンク機構 機構長
・佐々木 真理 いわて東北メディカル・メガバンク機構 機構長

【第2回】（令和6年12月20日）

○海外バイオバンク等の状況及び国内バイオバンクのデータ利活用促進に関するヒアリング
・荻島 創一 東北メディカル・メガバンク機構 教授
・辻 真博 JST CRDS フェロー
○疾患バイオバンクの取組と今後の方向性に関するヒアリング
・松田 浩一 バイオバンク・ジャパン代表、東京大学医科学研究所特任教授

【第3回】（令和7年2月3日）

○企業によるバイオバンク利用に関するヒアリング
・寺尾 寧子 武田薬品工業（株）
○今後のゲノム研究の在り方についてヒアリング
・石垣 和慶 慶應義塾大学医学部 教授
・岩田 仲生 藤田医科大学 教授
・山内 敏正 東京大学大学院医学系研究科 教授

【検討会議】（令和7年3月26日）

○今後のゲノム研究の在り方についてヒアリング
・鎌谷 洋一郎 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授
○次世代医療実現のための基盤形成の今後の方向性について

【第4回】（令和7年5月13日）

○次世代医療実現のための基盤形成の今後の方向性について

攻めの予防医療に向けた性差に由来するヘルスケアに関する副大臣等会議について

◎開催趣旨

- 「攻めの予防医療」とは、健康寿命の延伸を図り、皆が元気に活躍し、社会保障の担い手になっていただけるように、予防に努め、疾病を発見し、早期に適切な機関等につなげること。
- がん検診の推進など、「攻めの予防医療」全体については、上野賢一郎厚生労働大臣のリーダーシップの下、推進していくが、特に関係省庁の連携による取組が重要になる、性差に由来する健康課題等への対応を推進するため、本副大臣等会議を開催。
- 本副大臣等会議においては、主に以下の論点について、議論を行う。
 - ①性差に由来する健康課題に対応する医療の推進
 - ②ライフステージに応じた性差に由来する健康課題への対応の推進
 - ③企業・保険者等における対応の推進

◎メンバー

議長	佐藤 啓 内閣官房副長官	総括
副議長	仁木 博文 厚生労働副大臣	性差に由来した健康課題対策、医療保険制度との連携
構成員等	岩田 和親 内閣府副大臣（全世代型社会保障改革担当）	社会保障改革
	鈴木 隼人 内閣府副大臣（健康・医療戦略担当）	健康・医療戦略、医療関連の研究
	津島 淳 内閣府副大臣（こども政策担当）	母子保健、男女共同参画
	小林 茂樹 文部科学副大臣 ・ 福田かおる 文部科学大臣政務官	学校保健、性差関連の基礎研究
	井野 俊郎 経済産業副大臣 ・ 山田 賢司 経済産業副大臣	フェムテック、ヘルスケア産業、中小企業
	堀内 詔子 総務副大臣	情報通信

◎スケジュール

第1回	12月25日	検討スケジュール・議論のポイント、自由討議
第2回	1月16日	有識者ヒアリング①
第3回	3月9日	有識者ヒアリング②
第4回	4月23日	有識者ヒアリング等を踏まえた意見交換
第5回	5月25日	論点整理 ※関係省庁との連携を通じて、骨太方針等に反映

政府文書等における記載

経済財政運営と改革の基本方針2026（令和8年7月21日閣議決定）

第2章 1.（2）成長基盤の強化

（A X／D Xの推進、フロンティアの開拓）

改定「人工知能基本計画」等を踏まえ、リスクの適正な管理の下、A I 開発・利活用を強化し、開かれたA I 主権を確立しながら A I・データ基盤を整備 する。

第3章 2.（2）成長型経済に合わせた持続可能な社会保障制度

（攻めの予防医療と疾病対策）

「攻めの予防医療」を推進し、健康増進、肥満症を含む疾病予防、早期発見、早期介入及び行動変容に関係機関が連携して取り組む。

日本成長戦略（令和8年7月21日閣議決定）

（11）創薬・先端医療

①ファーストインクラス製品・ベストインクラス製品（医薬品、再生医療等製品）

ii）勝ち筋・方向性

基礎研究力の強みや近年の治験への取組みをいかし、 実用化を担う人材の育成や、スタートアップ・国際共同治験における資金・制度面の課題解消を図り、創薬シーズ創出から実用化まで一貫通貫で進める環境を整備し、「世界直行型」の開発を実現する。

iv）主な施策

・免疫・再生医療等の基礎研究力強化、国際水準の治験実施体制整備、AMEDによる研究開発資金の使途改善・大学と製薬企業との橋渡し・実用化推進、対象群のデータ蓄積を含む難病・希少疾患領域の支援、データ連携基盤整備を含めた データ利活用やA Iによる研究開発プロセスの高度化・効率化、新薬の国際展開を図る。

⑤ライフログデータ等を活用したヘルスケア関連サービス

iv）主な施策

・地域拠点整備等のスタートアップ支援、女性の健康やがん検診・歯科健診の データ等の利用基盤整備、国際展開、民間保険のヘルスケアサービス活用を推進する。

戦略17分野における「主要な製品・技術等」の官民投資ロードマップ（2026年7月21日日本成長戦略本部決定）

創薬・先端医療

①ファーストインクラス製品・ベストインクラス製品（医薬品、再生医療等製品）

3.（2）②資金基盤・データ利用基盤の確保、医薬品アクセスの改善

・AIを活用した研究開発の推進、データ連携基盤整備を含めた医療データ利活用に向けた仕組み・環境整備、バイオバンク活用推進

政府文書等における記載

統合イノベーション戦略2026（令和8年7月14日閣議決定）

3. 技術領域の戦略的重点化

（2）17の重要技術領域

⑦先端医療関連技術

（特に重点を置くべき施策）

・女性の健康や性差研究に資する研究基盤を充実し、疾病の発症リスク予測やメカニズム解明に向けた研究開発を強化する。

⑮バイオ・ヘルスケア関連技術

（特に重点を置くべき施策）

・A I 技術の活用など創薬の高度化につながるよう、ゲノム医療やバイオバンク・バイオリソースの活用を推進し、データ基盤を整備・強化する。

第219回国会における高市内閣総理大臣所信表明演説（2025年10月24日閣議決定）

8. 健康医療安全保障

「攻めの予防医療」を徹底し、健康寿命の延伸を図り、皆が元気に活躍し、社会保障の担い手となっていただけるように取り組みます。特に、性差に由来した健康課題への対応を加速します。私は長年、女性の生涯にわたる健康の課題に取り組んでまいりましたが、昨年、「女性の健康総合センター」が設立されました。本センターを司令塔に、女性特有の疾患について、診療拠点の整備や研究、人材育成等に取り組むなど、その成果を全国に広げてまいります。

女性活躍・男女共同参画の重点方針2026（2026年6月25日すべての女性が輝く社会づくり本部・男女共同参画推進本部決定）

3 性差に由来する健康課題に対応するための研究開発・人材育成の推進

○バイオバンクにおけるゲノム・オミックス情報や臨床情報等を充実させ、それらを活用した女性の健康や性差に関する研究開発を推進すること。

8つの統合プロジェクト※の位置付け

- 第2期のモダリティ等を軸とした研究マネジメント体制を基本的に継承
- 将来起こり得る新たな感染症パンデミックへの対応
- 生殖・妊娠期から老年期までのライフコースに繋がりを持たせる必要のある疾患研究を「データ利活用・ライフコース プロジェクト」にまとめる
- 臨床試験支援プラットフォームの構築、イノベーションエコシステムの構築
- アカデミアやスタートアップの絶え間ないシーズ創出・育成
- 全てのプロジェクトにおける環境整備及び人材育成



※令和7年度医療分野の研究開発関連予算等の資源配分方針（令和6年8月8日健康・医療戦略推進本部決定）で示された8つの統合プロジェクト

5. データ利活用・ライフコースプロジェクト

日本医療研究開発機構対象経費
令和8年度予算額 200億円

インハウス研究機関経費
令和8年度予算額 18億円

がん、難病、認知症等の疾患レジストリ、ゲノム・コホート研究の成果や検体情報のデジタル化の加工データ基盤の整備・利活用を促進し、ライフコースを俯瞰した疾患の発症・重症化予防、病態解明、診断、治療等に資する研究開発を推進することで、ゲノム医療、個別化医療の実現を目指す。

ゲノム・医療情報基盤研究開発

データ利活用基盤

ライフコース

文科省、厚労省、経産省、文科省、厚労省、総務省、こども家庭庁

ゲノム・医療情報基盤を活用した研究

ゲノム情報等を活用した研究

- 次世代医療実現バイオバンク利活用プログラム
(次世代医療実現推進プラットフォーム):
創薬等を見据えたデータ駆動型研究開発の推進や、バイオバンク横断検索システム等によるバイオバンク・ネットワークの構築
予算額 41億円の内数
- 革新的がん医療実用化研究事業:
がんに係る情報の集積と活用による創薬、個別化医療、早期診断等に向けた治療法や医療機器開発、研究
予算額 50億円
- 難治性疾患実用化研究事業:
難病のゲノム・臨床データ等の基盤整備・利活用の推進による自然歴の解明、新たな診断方法の実装等に向けたエビデンスを創出し、ゲノム医療、個別化医療の実現を推進
予算額 44億円

がん・難病全ゲノム解析
等実行プログラム
(事業間連携)

医療情報基盤を活用した研究

- メディカルアーツ研究事業
- 医工連携・人工知能実装研究事業
- 医療等情報連携基盤整備・利活用推進事業
- 「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業
- 移植医療技術開発研究事業
- 障害者対策総合研究開発事業(身体・知的・感覚器障害分野)
予算額 11億円

研究の推進
研究基盤の利活用促進

ユーザビリティのフィードバック
解析データの登録

データ統合利活用プラットフォームの整備

- 健康・医療研究開発データ統合利活用プラットフォーム事業:
ゲノム情報をはじめAMED事業で収集されるデータの利活用基盤の構築
予算額 8億円
※上記に加えて、一部AMED運営費交付金にて措置

AMEDが支援する
研究開発で
得られるその他
のデータ

バイオバンクの整備と利活用の促進

- 次世代医療実現バイオバンク利活用プログラム
(東北メディカル・メガバンク):
一般住民ゲノムコホート・バイオバンクを
構築し、次世代医療基盤を整備
予算額 41億円の内数
- 次世代医療実現バイオバンク利活用プログラム
(ゲノム研究バイオバンク):
多様な疾患の試料・情報を有する疾患バイオバンクを構築し、次世代医療基盤を整備
予算額 41億円の内数
- ナショナルセンターバイオバンクネットワーク
(NCBN):
臨床試料と電子カルテから抽出した精度の高い
臨床情報を収集・整備
インハウス研究機関経費
予算額 11億円

- 医療高度化に資するPHRデータ流通基盤構築事業(第2期)
予算額 3億円

- ゲノム創薬基盤利活用推進研究事業:全ゲノム情報等を活用した新規創薬ターゲットの探索等のための情報基盤の整備
予算額 3億円

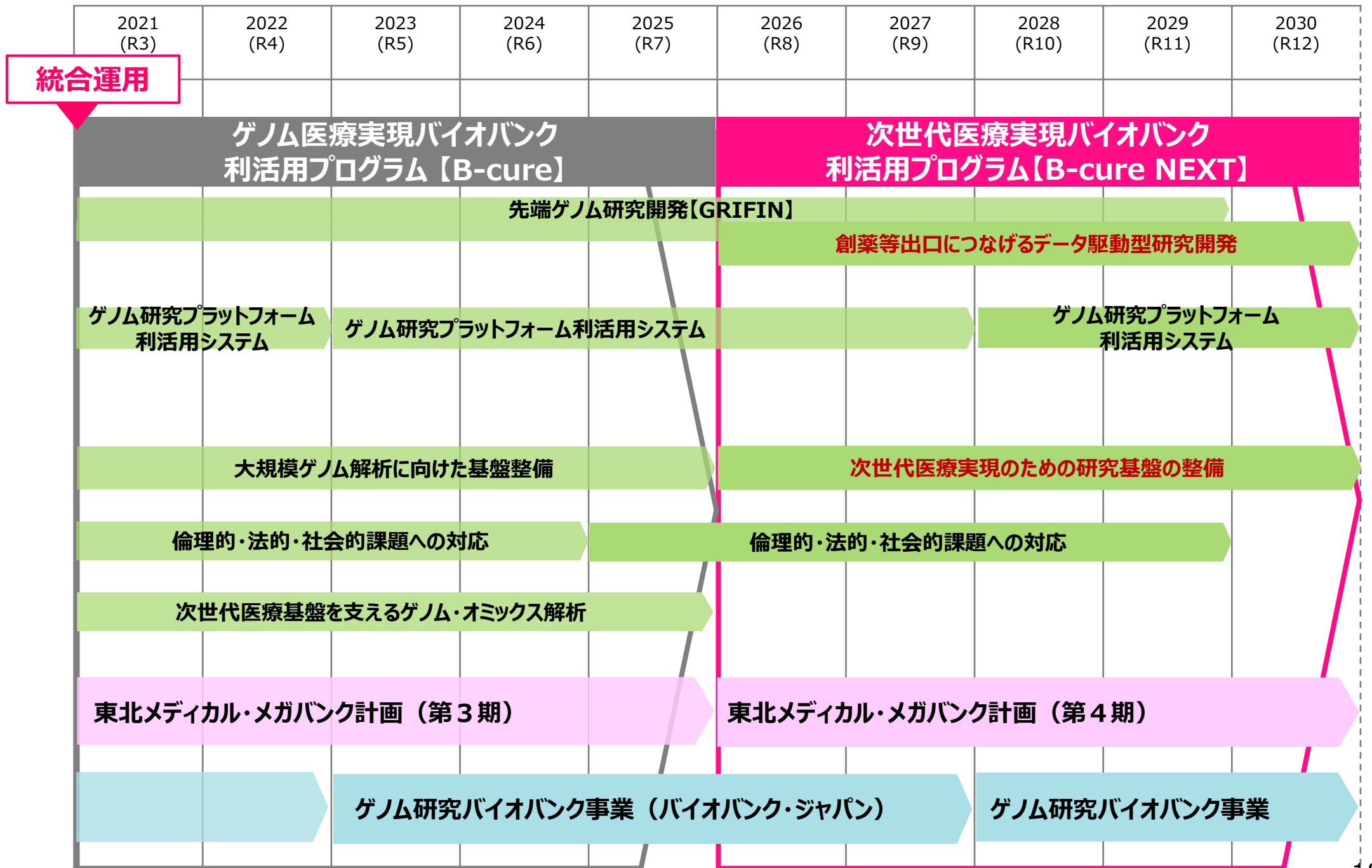
- ゲノム診断支援システム整備・運営事業/NCにおける治験・臨床研究推進事業:各国立高度専門医療研究センターでゲノム情報を診断に活用するための基盤整備及び治験等の推進
インハウス研究機関経費
予算額 7億円

- 腎疾患実用化研究事業 / 免疫アレルギー疾患実用化研究事業 / 認知症研究開発事業 / 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業 / 女性の健康の包括支援実用化研究事業 / 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野) / 慢性の痛み解明研究事業 / 長寿科学研究開発事業
予算額 41億円

他のプロジェクトの研究へ展開・連携

1. 医薬品プロジェクト
 2. 医療機器・ヘルスケアプロジェクト
 3. 再生・細胞医療・遺伝子治療プロジェクト
 4. 感染症プロジェクト
- 等

次世代医療実現バイオバンク利活用プログラムの経緯



東北メディカル・メガバンク計画のこれまでの経緯

<経緯>

平成23年6月	東日本大震災復興構想会議において、村井嘉浩宮城県知事が「東北メディカル・メガバンク構想」を含む提言を提案
平成23年11月	医療イノベーション会議において、山本雅之医学系研究科長（当時）が同構想を提案
平成24年2月	第3次補正予算成立。東北メディカル・メガバンク計画（TMM計画）予算化（約158億円）
平成24年6月	東北大学東北メディカル・メガバンク機構（ToMMo）設置
平成24年7月	文部科学省東北メディカル・メガバンク計画検討会「東北メディカル・メガバンク計画検討会 提言」とりまとめ
平成24年7月	岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構（IMM）設置
平成24年7月	「 TMM計画 全体計画（第1段階） 」策定（クレジット：文部科学省東北メディカル・メガバンク計画推進本部）
平成27年4月	AMEDの発足に伴い、東北メディカル・メガバンク計画推進本部のミッション策定をAMEDに移管。AMED TMM計画プログラム推進会議が計画の推進を担う
平成28年8月	文部科学省ライフサイエンス課「東北メディカル・メガバンク計画の第2段階の推進に係る基本方針（中間とりまとめ）」
平成29年3月	同（最終とりまとめ）策定
平成29年4月	「 TMM計画 全体計画 改定版（第2段階） 」策定（クレジット：AMED基盤研究事業部 TMM計画 榊PS）
令和2年4月	文部科学省次世代医療実現のための基盤形成に関する作業部会「東北メディカル・メガバンク計画の今後の在り方について」策定
令和3年4月	B-cure事業 開始。TMM計画はサブプログラムとして統合
令和3年4月	「 TMM計画 第3段階 全体計画 」策定（クレジット：AMED）
令和7年5月	文部科学省次世代医療実現のための基盤形成に関する作業部会「次世代医療実現のための基盤形成の今後の方向性について」を策定
令和8年4月	B-cure NEXT事業 開始。TMM計画は引き続きサブプログラムとして構成

東北メディカル・メガバンク計画（TMM）の主な成果

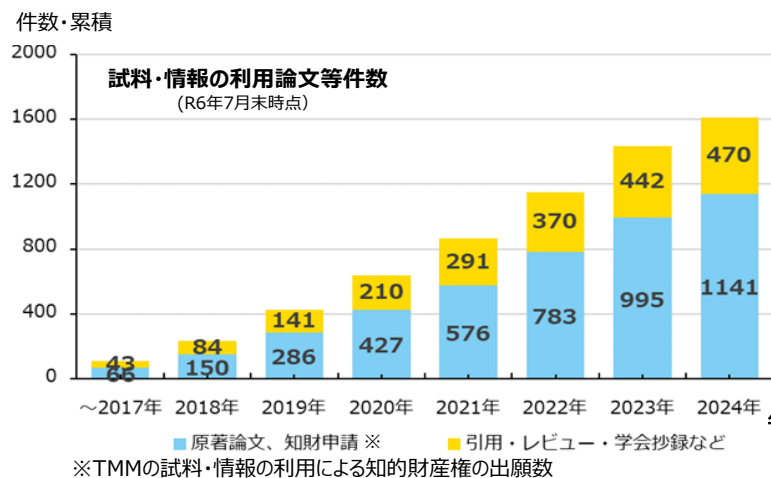
製薬企業における創薬開発などへの貢献

- エーザイ株式会社
アルツハイマー型認知症のメカニズム解明
- 武田薬品株式会社
難聴や脳の認知機能に関する遺伝子の同定
- 第一三共株式会社
抗酸化反応に関する遺伝子の同定、自閉症研究
- ヤンセンファーマ株式会社
日本人特有のうつ病に関するリスク因子の解明



多様な研究開発の推進への貢献

- ゲノム情報を活用した論文1,000本以上公開
- 試料・情報の分譲実績 100件以上



DNA：約1,900検体 血漿：約1,100検体
血清：約2,800検体 調査票（生活）情報：約205万検体
ゲノム配列（アレイ）情報：約93万検体
が、これまでにアカデミア・民間企業に分譲されている

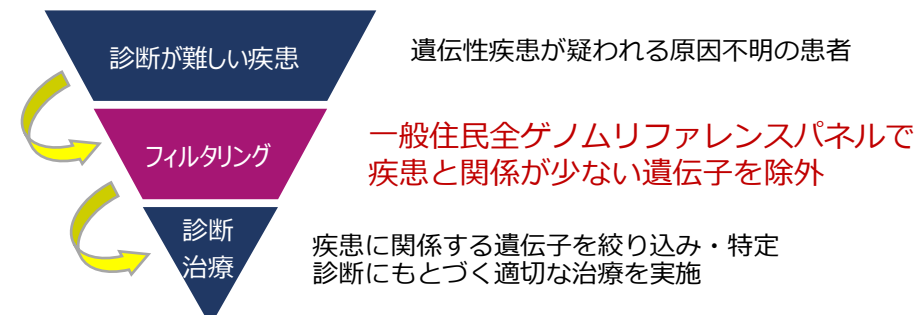
健康リスク予測による
個別化医療の実現



難病・診断がつかなかった病気の診断・解明への貢献

AMED未診断疾患イニシアティブ（IRUD）※1にて、一般住民全ゲノムリファレンスパネル※2を活用

- IRUD内のゲノム解析6880、診断確定3226（確定率46.9%）
(2023年9月30日時点)



※1 希少・未診断疾患患者に対して、体系的に診断する医療システムや、患者情報を収集・蓄積・開示するシステムを確立する研究を支援・推進

※2 TMM計画で実施された、日本人一般住民全ゲノム解析により検出されたデータをもとに構築した日本人ゲノム配列のパネル。一般住民のゲノム情報をもとにしているため、リファレンスとして有効。

がんゲノム医療への貢献

国立がん研究センターのC-CATがんゲノムパネル解析では、解析結果に対して、見つかった変異が“どれだけ珍しいものなのか”を示すために、一般住民全ゲノムリファレンスパネルにおける変異の存在頻度を報告書に付記

ゲノム解析による
迅速・正確な診断・治療



令和7年度ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム（東北メディカル・メガバンク計画） 事後評価 評価コメント



<https://www.amed.go.jp/content/000147254.pdf>

評価課題名	研究開発 代表者名	所属機関	役職
東北メディカル・メガバンク計画（東北大学）	山本 雅之	東北大学	教授

【評価コメント】

震災後の要求度の高い研究を堅牢な組織管理体制の下、代表者のビジョンが実務メンバーに共有され、一丸となって取り組んでいる。計画に掲げた課題は概ね達成され、次世代医療に有用な成果物、具体的には、試料・情報収集の目標達成や世界的にも貴重な三世代コホートの運営、健康ポータル構築、企業との連携も進展している。

次期以降については、**研究成果の社会実装等の観点で**評価可能なKPIを明示する等、**研究計画段階で定量的な目標設定の上、進めて欲しい**。また、**コホート調査においても、調査参加者数を維持する工夫を続け、前向きコホートとしての価値の維持（向上）を図ると共に、バイオバンク事業に対する社会的認知をさらに向上させるための広報（社会実装に向けた活動等）により一層取り組んで頂きたい**。

今後、国費等および国内外の民間などとの共同研究による出資を通して、**各出資用途に明確に応え、継続性あるバイオバンクの研究開発とその成果を描くことが重要**である。それら成果の積み重ねから、社会実装につなげていくバイオバンクとして加速して頂きたい。引き続き、コホート・バイオバンクの活動を継続し、個別化予防・医療の実現に向けてさらに発展・貢献することを期待する。